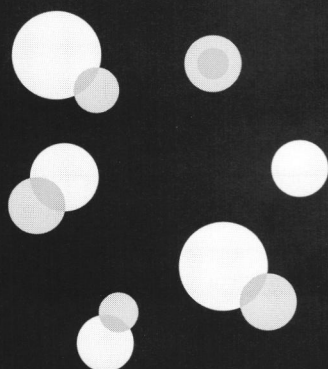




JSABs
Japan Society of Applied Business Studies

日本ビジネス実務学会

会報 No.64

2016年4月1日発行

発行/日本ビジネス実務学会広報委員会

事務局/〒004-8602 札幌市清田区清田4条1丁目4-1 札幌国際大学内

URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp> / e-mail: business.jitumu@gmail.com

地域連携の基盤教育となるビジネス実務教育

会長 椿 明美 (札幌国際大学短期大学部)



地方創生のもと、地域が求める人材を育成する役割が焦点化され、大学では教育カリキュラムの改革が進められています。特に、地域との連携、産学連携による取組をカリキュラムと連動することで、大学で学ぶことが社会にどう繋がるのかが把握される機会ともなり、文系の大学における社会との接続問題を解決する糸口となることは間違いありません。

そこで、ここにビジネス実務がどう関係して行くのかという点が課題となります。ビジネス実務教育に重要なことは、「学生が主体的に取り組む総合的な実務体験学習」であるという確認が学会名称変更時になされていました。つまり、本学会での研究は、能動的学習をすでに対象として行っており、その蓄積があるということが明確になります。長く学会に所属されている方々にとって自然体で指導ができる分野であるということも明らかでしょう。

特に、地域連携、産学連携を進めるにあたり、必要な教育技法としてPBLを始めとしたチームで課題に取り組む能動的学習が挙げられますが、本学会では前述のとおり当然のことながら、それらの研究成果はすでに多く蓄積されており、これが学会の強みとして認められます。つまり、ビジネス実務研究において取り組まれてきたことは、地域連携、産学連携を進めるための基盤となる教育に繋がるということでもあり、この点を押さえておきたいと思います。

本学会の独自性でもある「実践の知」を活かしながら、今後、研究をどのような方向性を持って進めて行くべきでしょうか。現在、研究領域ワーキンググループによって、ビジネス実務研究対象領域の再構築を目的とした議論をしているところです。ここで地域連携、産学連携におけるビジネス実務教育の視点は逸らすことはできない課題となるでしょう。

また、ブロガーによる投稿が政府の動きを変える時代です。SNSがビジネスに影響を与えることもあり、その活用や倫理上の問題などは急務となり、それに関する研究も出てきています。時代の即した研究対象領域の提案、検討を進めて参ります。

第35回全国大会では、新たな試みとしてポスター発表を導入しましたが、応募者数が15件、口頭発表21件と合わせて36件の発表数となり、活気を呈して参りました。新しい風が吹いている本学会で、ビジネス実務とは何か、という原点に立ち戻りながら、これまでの学会の研究蓄積を活かし、地域に貢献できる人材育成研究を継続して参りたいと思います。

Contents

会長挨拶	1
委員会活動報告	2
ブロック研究会活動報告	
北海道、関東・東北ブロック	3
中部、近畿ブロック	4
中国・四国、九州・沖縄ブロック	5
ブロック研究会研究発表一覧	6～7
ブロック研究会運営委員一覧	7
事務局からのお知らせ・新入会員・第35回全国大会のご案内	8

委員会活動報告

総務企画委員会

委員長 坪井 明彦（高崎経済大学）

総務企画委員会では、研究領域検討のワーキング・グループとともに、学会の研究領域について、研究の活性化を目的に再検討しています。次回の総会において、その結果を報告したいと思います。

また、ビジネス実務論集執筆要領の改訂を検討しています。投稿する方は、執筆要領の遵守をお願いします。

研究推進委員会

委員長 大重 康雄（鹿児島女子短期大学）

第34回2015年度全国大会（九州・沖縄ブロック）が6月13日・14日の両日、鹿児島女子短期大学で開催され、大会統一テーマ「ビジネス実務教育の新たな展開」の下、多くの研究報告が行われ無事終了しました。終了後9月開催の研究推進委員会で大会実施報告を分析し、次回第35回全国大会（中部ブロック）に向けて全国大会をより活性化する企画・プログラム構成等改善案を検討しました。また2014年度JAUCB受託研究報告（九州・沖縄ブロック）を確認し2015年度の受託調査研究計画（北海道ブロック）について実施要領等の検討も行いました。全国大会での研究発表の基礎となる各ブロック研究会での研究の活性化に向けても討議しました。12月開催の委員会では、さらに詳細な全国大会プログラムの検討を行いました。

これら学会研究の活性化への取組は、地域・産業界との連携やビジネス実務教育の理論研究また教育効果検証等と直接関わってきます。現在本学会の研究は非常に多様な広がりを示しており、今年度から研究領域の再検討に着手しました。現在ワーキンググループを立ち上げ本学会の研究領域確認と新たな領域の検討を行っているところです。

編集委員会

委員長 米本 倉基（藤田保健衛生大学）

2015年度もビジネス実務論集第34号を発行しました。例年に比べて多い19件の申し込みがあり、うち14件が投稿されました。各論文に対して査読者2名の審査と12月の編集委員会における審議を経て、教育開発研究分野で論文2編、研究ノート6編の計8編が審議を通過（修正を条件とするもの、再審査を必要とするものを含む）しました。採択率は57%と掲載は容易ではありませんが、不採用になった論文はユニークなものばかりで、ぜひ、再チャレンジを期待したいです。また、特別寄稿として助成研究成果報告を掲載しました。

2016年度（第35号）も7月に投稿申し込みを開始し（8月上旬締め切り）、原稿の締め切りは10月になる予定です。投稿をお考えの先生方は、準備をよろしく願いますと同時に、多くの方からの投稿をお待ちしています。

広報委員会

委員長 和田 佳子（札幌大谷大学）

今年度も例年どおり会報を2回発行しました。会報No.63は6月に開催された鹿児島大会の詳細号として、大会プログラムおよび研究発表の概要を掲載しました。本号（No.64）では全国6ブロックの活動報告を中心に掲載しています。各ブロックの特色ある取組みや研究内容が紹介されていますので、相互研鑽に役立てていただければ幸いです。なお、会報の作成・印刷・郵送方法等について、経費削減のために見直しの余地がないか、委員会で検討を始めたところです。

また、事務局の移転に伴い学会ホームページがリニューアルされました。教育研究活動の足跡を蓄積するとともに、本学会の魅力を発信していきたいと思っています。会員の皆様からの積極的な情報提供やご意見をお待ちしています。

ブロック研究会活動報告

北海道ブロック

■北海道ブロック研究会報告

武井 昭也（札幌国際大学）

1. ブロック研究会の動向

ブロック会員数はここ数年、30名前後で推移している。6ブロック中最小規模ではあるが、研究会活動は意欲的に取り組む会員が多い。運営は、監事を含む10名の運営委員会を中心に行なっている。小さい所帯ならではの親密さを活かしながら、さらに活動を活発にしたいと願っている。

2. 2015年度の活動

(1) 総会・講演会

総会と講演会を2015年7月4日（土）に札幌国際大学で開催した。株式会社セイコーマート代表取締役社長丸谷智保様のご講演には会員に加え学生や地域の方々も加わり100名を超える参加者が、北海道ブランドのセイコーマート株式会社経営方針や社員教育、新入社員の研修等、北海道経済や産業の将来などについて大変有意義なお話をうかがうことができた。

(2) 第12回学生プレゼンテーションコンテスト

2015年12月23日（水）に北海商科大学で開催した。4大学11名と4名の留学生発表があり、応援や見学の学生との質問や意見も多く、例年以上に活気ある充実した内容となった。審査結果は以下のとおりである。

■最優秀賞 「若者が活かす地域の魅力！」

北海学園大学 山田祐也さん

■優秀賞 「英語コミュニケーション力が日本を変える」

北海道文教大学 柿崎裕大さん

■優秀賞 「留学生の部」「照れる日本人と照れる中国人」

北海商科大学留学生（中国山東大学威海校）王邦さん

(3) ブロック研究会

2016年2月27日（土）に北海商科大学で開催した。出席者は15名。研究発表4件、発表終了後にはフリー・ディスカッションの場を設けて意見交換と会場を移しての懇親会でさらに情報交換を行った。

(4) 2014年度「ブロック研究会活動報告書」の発行

例年どおり、「ブロック研究会活動報告書（要旨集）」を年度末に発行し、会員に郵送の予定である。



関東・東北ブロック

■関東・東北ブロック研究会報告

高橋 真知子（常磐短期大学）

1. 2015年度ブロック研究会の動向

長く大変お世話になった産能短期大学でのブロック研究会は2014年度を最後として、本年度は初めて東京の中心地、九段下にある大妻女子大学を会場に、例年以上の参加者を集めて開催することができた。また、「関東・東北」とはいえ、従来関東地区でしか開催されてこなかったブロック研究会を2016年度は、初めて東北の福島学院大学での開催を予定している。会員の皆さんと協力して新しい試みに取り組んでいる。

ブロックの活動費については、当分は運営委員会決議に従って、会員の負担を軽減して、活動を促進する方向で活用していくこととする。

2. 第34回全国大会

「多様な地域連携の試み」実践事例研究報告に、高崎経済大学の坪井明彦先生が「ゼミ活動を通じた地域企業との連携—リクルート北関東マーケティングからのミッション—」をテーマに発表された。

3. 第43回ブロック研究会

2016年2月13日（土）、大妻女子大学にて、参加申込者40名、当日参加者会員31名、ビジター8名、計39名で開催した。

(1) 総会では、飯塚会計・助成研究担当サブリリーダーから、2014年度決算報告と2015年度予算説明がなされ承認された。

(2) 助成研究は新規に1件が承認された。

(3) 研究会では、基調講演者にP H P 新書45刷という驚異的な実績を持つ山田ブーニー氏を迎え「学生たちが数時間で想いを『話せる・書ける』ようになる！言葉の産婆の表現教育 書く人を育てる」をテーマに講演を行った。講演後、時間を延長して活発な質疑応答がなされた。

研究発表は、助成研究1件、個人研究1件、実践事例報告2件計4件であった。助成研究は綿密な調査がなされていた。また、特筆すべきは、個人の発表者が全員初めてであったにも関わらず、大変充実した内容であったことである。その後、参加者全員で、日頃関心の高いテーマに別れてバズセッションを行った。

「自己表現」「キャリア教育」「地域連携」「アクティブ・ラーニング」「就職支援」について、自由に活発な意見交換が行われ、グループごとに発表を行った。終日、参加者全員の協力で充実した研究会を開催することができた。

4. 2015年度ブロック会報の発行

2016年3月末を目途に、「ブロック研究会活動報告」をHPに掲載する。



中部ブロック

■中部ブロック研究会報告

手嶋 慎介（愛知東邦大学）

1. ブロック研究会の開催

2016年1月9日・10日の2日間、金城大学・金城大学短期大学部において、今年度のブロック研究会が開催された。会員等30名超、プレゼンテーション・コンテスト出場学生7名の参加があり、大変賑わいのある研究会となった。また、金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授の杉森公一先生をお招きして、「アクティブラーニング型授業の構成要素～知との対話・協同・探求をめぐる技法と授業設計～」というテーマでワークショップを開催した。「真の学び」「深い学び」とは何か、そのためにはどのような授業を展開すべきかを共に考え、参加者全員が心を合わせた大変有益なワークショップとなった。研究発表は2日間で7件行われて活発な質疑応答が交わされた。

2. 総会

2016年1月9日、ブロック研究会の最初に総会が開催された。6月の第35回全国大会開催を想定しながらのブロック研究会の会場準備・当日運営ということで、例年以上に万全の体制が整えられた。全国大会実行委員会も含め複数回実施された運営委員会報告、平成26年度の会計報告、次年度活動方針が審議され、満場一致で承認された。

3. 学生プレゼンテーション・コンテストの開催

ブロック研究会の初日に開催された学生プレゼンテーション・コンテストでは、最優秀賞を中田友莉恵さん（金城大学短期大学部1年）が受賞し、優秀賞には井城久瑠美さん（富山短期大学1年）と佐藤愛さん（新潟県立大学3年）の2名が、そして奨励賞には沖高沙織さん（富山短期大学1年）、鈴木翔大さん（名古屋経営短期大学1年）、丹羽郁晴さん（名古屋経営短期大学1年）、向山茉希さん（金城大学短期大学部1年）の4名が選ばれた。

4. 中部ブロック会報第30号の発行

3月には、ブロック研究会の発表内容等を盛り込んだ「中部ブロック会報第30号」を発行し会員に配布した。



近畿ブロック

■近畿ブロック研究会報告

坂本 理郎（大手前大学）

1. 研究会

第52回近畿ブロック研究会が2016年2月14日（日）に西宮市大学交流センターで開催され、参加者は非会員を含む30名であった。今回の研究会は、総会、助成研究最終・中間報告、学生によるプレゼンテーション大会、研究発表、研修会という次第であった。

2. 総会

ブロックリーダーより、2014年度活動報告、決算報告があり、さらに2015・2016年度の事業計画と予算案が示された。予算案においては、ブロック会員が100名に満たない場合の試算をもとに、研究会参加費、ブロック報作成費用の見直しを諮ったところ、参加の全会員の賛同を得た。

3. 助成研究最終・中間報告

平成26年度よりの助成研究の最終報告が3件、平成27年度より始めた中間報告が1件あった。最終報告3件は、いずれも学生の教育開発に資するもので、調査データを中心に行われた。中間報告は、聞き取り調査結果等の内容であった。

4. 学生によるプレゼンテーション大会

9回目となる今回は、3組8名の学生が「学生生活の中で、個人またはグループで主体的に取り組んだこと」を共通テーマに、クラブ活動、ゼミ、インターンシップで学んだことを発表した。発表後、会場全員による「内容」「技術」「発表時間」「質疑応答」等の項目に沿った評価の結果、最優秀賞1名、優秀賞2組を授与した。

5. 研修会

兵庫県立大学の宮本匠先生をお招きし、「アクションリサーチと当事者評価の手法についてー新潟県中越地震の被災地の事例からー」と題して、前半は講演、後半はグループワーク実施という内容で、アクティブな研修会であった。



中国・四国ブロック

■中国・四国ブロック研究会報告

佃 昌道（高松短期大学）

1. ブロック研究会の動向

ブロック会員数は、ここ数年、約60名前後で推移している。運営の改選があり、2015年度、2016年度は、これまで4年間お世話になった6名の運営委員の方々から、新たに5名の運営委員の交替により、研究会を運営することになった。

2. 2015年度の活動

2015年8月29日・30日の2日間、広島女学院大学において、第32回ブロック研究会を開催した。今回の基調講演は、株式会社西京銀行の地域連携部長末田義明氏をお招きし「地域活性化の取り組みとしての創業サポートー西京銀行の地域連携事業ー」を開催した。

今回の研究会では、総会、学生によるプレゼンテーション大会、研究発表が行われ、活発な質疑応答が交わされた。その後会場を移しての懇親会で、情報交換を行った。

3. 総会

リーダーによる前年度（2014年度）の事業報告と会計報告が行われた。さらに新年度（2015年度）の事業計画と予算案が示され、承認された。

4. 学生プレゼンテーション大会

今回で10回目となるが、近藤郁美さん（徳島文理大学短期大学部1年）、大島晏生さん（徳島文理大学1年）、三木香澄さん（高松短期大学2年）、才津原夢奈さん（広島女学院大学3年）の4名による発表であった。優秀賞は、才津原夢奈さんによる「私の大学生活ー「パカる」体験から得たものー」というユニークなタイトルで、発表内容も大変説得力のあるものであった。先生方の熱心な指導もあり、4名の発表者それぞれの内容・構成等は大変すばらしく熱意あふれるものであった。

5. 運営委員会

2015年度の役割分担について、次年度以降の方策、さらに研究推進や会員数拡大等、今後の課題について検討を行った。



九州・沖縄ブロック

■九州・沖縄ブロック研究会報告

大重 康雄（鹿児島女子短期大学）

1. 2015年度ブロック研究会の動向

6月に第34回全国大会を鹿児島女子短期大学で開催した直後であり、大会実行委員として学会発表全体を俯瞰できた経験から、今後のブロックでの研究目標をどのように置くべきか改めて考え直す年度となった。前年2014年度は同全国大会準備により実務的な打合せに追われたが、本年度から本格的にブロック研究会の方向性・運営方法の見直しに着手した。第58回ブロック研究会ではその具体的な提案がなされている。今後、さらに地域連携推進とビジネス実務教育の改善に積極的に取り組んでいきたい。

2. 第34回全国大会

第34回全国大会は九州・沖縄ブロックが担当し、平成27年6月13日、14日の両日鹿児島女子短期大学で開催した。桜島の噴火活動や大雨の影響が懸念されたが、滞りなくプログラムを実施することができた。本ブロックからは福井会員、徳永会員、中村会員、見館会員、井上会員、江藤会員の6名が日頃の研究成果を発表した。また「JAUCB研究助成報告」では山本会員ほか、当ブロックの担当会員からTBL（チーム基盤型学習法）に関する報告を行い、「多彩な地域連携の試み」では、平国会員・中村会員両名により地域モデルの構築を過疎地域活性の視点から発表を行った。大会運営に関しては、鹿児島県内の会員所属校の学生が支援や聴講で関わり、前向きな評価を得ることができた。

3. ブロック研究会の実施状況

第57回ブロック研究会を平成27年10月3日に北九州市立大学で、第58回ブロック研究会を平成28年2月20日に久留米市男女平等推進センターで開催した。第57回ブロック研究会では、Ⅰ部 全国大会の最終報告 Ⅱ部 平成27年度研究会運営について 1) 平成26年度会計報告 2) 平成27・28年度 運営委員組織 3) 今後の活動について審議を行った。第58回ブロック研究会では今後のブロック研究会のあり方を審議した。また研究発表では、第57回と第58回を通じて7件の発表が行われた。



ブロック研究会研究発表一覧

発表タイトル、発表者（所属）／研究領域

■北海道ブロック研究会

1. 「グローバル人材に求められる主体性」、加藤由紀子（北海商科大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1) ビジネス環境と実務
2. 「学校管理下のリスクマネジメントー高等教育機関での対応を考えるー」、佐々木邦子（北翔大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2) ビジネス環境と実務
3. 「自律的かつ方向性を持った学びを実現する方法としてのカリキュラムー教養に裏付けされた専門へ向かう学びー」、石田麻英子（札幌国際大学短期大学部）、小林純（札幌国際大学短期大学部）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 1) ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
4. 「サーキットモデルを活用した観光系プロジェクト教育の実践と有効性」千葉里美（札幌国際大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業方法の研究

■関東・東北ブロック研究会

●助成研究

1. 「中期キャリアを見越しての就業前キャリア教育の研究Ⅱ」代表 齋藤裕美（多摩大学）、佐藤美津子（多摩大学）、長谷川美千留（八戸学院大学）、田中敬子（コムネット）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1) ビジネス環境と実務

●個人研究

2. 「高大連携に関する一考察 簿記会計教育を中心として」、長谷川美千留（八戸学院大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業方法の研究

●実践事例報告

3. 「ゼミナールを通じた人材育成の試みー社会変革とビジネス創造への挑戦ー」、安齋徹（群馬県立女子大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業方法の研究
4. 「福島県伊達市霊山町「掛田商店街」と連携した地域活性化事業について」、木村信綱（福島学院大学短期大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2) 時代を切り拓くビジネス実務

■中部ブロック研究会

1. 「ものづくり人材教育『デザインとコミュニケーションのためのスケッチ』の実践」、尾関智恵（滋賀文教短期大学）、土屋衛治郎（九州工業大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業方法の研究
2. 「医療通訳養成の現状と課題」米本倉基・濱島由季（藤田保健衛生大学大学院）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1) ビジネス環境と実務
3. 「短期大学における医療事務資格取得についての一考察」、黒野伸子・河合晋（岡崎女子短期大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業

方法の研究

4. 「医師事務作業補助者研究の変遷と今後の展望」、濱島由季・米本倉基（藤田保健衛生大学大学院）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1) ビジネス環境と実務
5. 「ビジネス系学科におけるメディカルコース教育の在り方」、河合晋・黒野伸子（岡崎女子短期大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 授業方法の研究
6. 「サービスデザイン教育の現状と応用の可能性について」、町田由徳（岡崎女子短期大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1) ビジネス環境と実務
7. 「プロジェクト型教育の成果に関する一考察」、奥村 実樹（金沢星稜大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2) 時代を切り拓くビジネス実務

■近畿ブロック研究会

I. 研究助成

1. 「就職試験における数的処理能力測定の意義～適性検査に見る就業力とは（最終報告）」、樋口勝一（追手門学院大学）、仁平直（神戸国際大学付属高等学校）、福井就（大手前学園）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 1) ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
2. 「コミュニケーション能力の客観的測定尺度のための基礎研究（最終報告）」、酒井健（大手前大学）、福井愛美（神戸女子短期大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 1) ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
3. 「合同ゼミナールと学生の成長の関連に関する研究 ～ジェネリックスキル育成の観点から（最終報告）」、西尾久美子（京都女子大学）、小野善生（滋賀大学）、川端勇樹（中京大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 1) ビジネス実務プログラム開発と教材開発プログラム
4. 「旅行・観光ビジネスにおける『地域限定旅行業』の現状と将来性（中間報告）」、中川伸子（神戸女子短期大学）、川島正章（大手前大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2) ビジネスキャリアの開発

II. 個人研究発表

5. 「地方自治体の行政評価の問題点ーアカウントビリティの観点からー」、掛谷純子（京都女子大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2) ビジネス実務の評価
6. 「ライティングプロセスに着目した学生参加型授業におけるルーブリック活用」、毛利美穂（関西大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2) 参加型授業の展開
7. 「能楽の人材育成マネジメントー技能育成と能力発揮の場の設定ー」、西尾久美子（京都女子大学）／【3】個人とチームの実務能力の開発 2) ビジネスキャリアの開発

■中国・四国ブロック研究会

1. 「PBL導入型社員教育による組織活性化 ～M社の実践を通じての効果と検証～」、佐々木 公之（中国学園大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 3)個人とチームの実務能力の開発
2. 「インターンシップの現状と今後の課題について」、金岡敬子（四天王寺大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務
3. 「保護者の視点から見た文学部のイメージ」、堀口政信（徳島文理大学）／【2】ビジネス実務の調査・研究 1)ビジネス環境と実務
4. 「PBL型授業における社会人基礎力の向上についてー協同作業の効用認識を通じた心理プロセスの変化ー」、吉田順子（広島女学院大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
5. 「『One for All宣言』の手法の実践事例について（その2）ー企業のCSR部門等への提案を通してー」、曾根康仁（関西学院大学 非常勤）／【2】ビジネス実務の調査・研究 2)時代を切り拓くビジネス実務

■九州・沖縄ブロック研究会

1. 「氾濫社会に於けるビジネス実務教育の一考察（その1）」、北原康司（釜山女子大学）／【2】ビジネス実務調査・研究 1)ビジネス環境と実務
2. 「スターバックスコーヒーの対話戦略の研究」、井上 奈美子（熊本学園大学）／【2】ビジネス実務調査・研究 1)ビジネス環境と実務
3. 「ビジネス実務教育におけるTBL導入（教育実践と評価）」、所吉彦（尚絅大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
4. 「大学生が地域社会を変革する『地方創生モデル』の開発」、見館好隆（北九州市立大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
5. 「アクティブラーニングを活用した『クロス型訪問調査』ー岡山ー久留米：産地コラボレーションプロジェクトの事例を中心にー」、江藤智佐子（久留米大学）／【1】ビジネス実務の教育開発研究 2)授業方法の研究
6. 「氾濫社会に於けるビジネス実務教育の一考察（その2）」、北原康司（釜山女子大学）／【2】ビジネス実務調査・研究 1)ビジネス環境と実務
7. 「就活と職業意識に関する中華民国との比較考察ー中華民国提携校『樹人医護管理専科学校日本語学科』の協力を得てー（事例報告）」大重康雄（鹿児島女子短期大学）／【2】ビジネス実務調査・研究 1)ビジネス環境と実務

ブロック研究会運営委員一覧

◎はブロックリーダー、○はサブリーダー

■北海道ブロック

- ◎武井 昭也（札幌国際大学）
○加藤由紀子（北海道科学大学）
官尾 昌子（北海道武蔵女子短期大学）
神野由香里（山本隆行法律事務所）
高橋 秀幸（北海道武蔵女子短期大学）
田澤 早苗（北海道文化放送）
千葉 里美（札幌国際大学）
南 聡子（札幌放送芸術専門学校）
森谷 一経（北海道文教大学）
和田 早代（札幌国際大学）

■関東・東北ブロック

- ◎高橋真知子（常盤短期大学）
○飯塚 順一（湘北短期大学）
○岡田小夜子（大妻女子大学短期大学部）
○藤原 由美（産業能率大学）
大島 武（東京工芸大学）
大塚 映（東京経営短期大学）
小松 由美（福島学院大学短期大学部）
齊藤 裕美（多摩大学）

- 坪井 明彦（高崎経済大学）
畠田 幸恵（神奈川歯科大学）
宮田 篤（青森中央短期大学）

■中部ブロック

- ◎手嶋 慎介（愛知東邦大学）
○加納 輝尚（富山短期大学）
○河合 晋（岡崎女子短期大学）
西川三恵子（名古屋経営短期大学）
若月 博延（金城大学短期大学部）
奥村 実樹（金沢星稜大学）
岡野 大輔（金城大学）

■近畿ブロック

- ◎坂本 理郎（大手前大学）
○中川 伸子（神戸女子短期大学）
福井 愛美（神戸女子短期大学）
野坂 純子（大手前短期大学）
加藤 晴美（ブール学院大学短期大学部）
樋口 勝一（追手門学院大学）
足塚 智志（京都華頂大学）

- 西尾久美子（京都女子大学）
兒島 尚子（大阪樟蔭女子大学）
仁平 章子（阪南大学）

■中国・四国ブロック

- ◎佃 昌道（高松短期大学）
○金岡 敬子（四天王寺大学）
渡辺 裕一（川崎医療福祉大学）
堀口 誠信（徳島文理大学）
立花 知香（安田女子短期大学）
水口 文吾（高松短期大学）

■九州・沖縄ブロック

- ◎大重 康雄（鹿児島女子短期大学）
○見館 好隆（北九州市立大学）
大橋 健治（筑紫女学院大学）
藤村やよい（久留米信愛女学院短期大学）
井上奈美子（熊本学園大学）
天野 緑郎（MC&フューチャーコンサルティング）

事務局からのお知らせ

■ビジネス実務論集No.35について

2017年3月発行予定のビジネス実務論集No.35の投稿募集は以下のスケジュールで予定しております。みなさまの投稿をお待ちしております。投稿申込期限を過ぎますと受付できませんのでご注意ください。ご質問等は、学会事務局までメールにてお問い合わせください。

2016年7月上旬 はがき、学会HPにて投稿募集のお知らせ

2016年8月上旬 投稿申し込み締切

■転居届提出のお願い

当学会からの発行物は郵便局ならびに宅配業者を利用しております。そのため、郵便局への転居届だけでは、宛先不明で学会事務局へ返送されてきます。発行物をスムーズにお届けするためにも、学会事務局への転居・所属先変更のご連絡をよろしくお願いいたします。

なお、5月初旬にお届けいただいておりますご自宅もしくは所属先ご住所に会費の請求書（会員データ確認書）をお送りいたしますので、よろしくお願いいたします。

■学会HPリニューアル

すでにお知らせいたしましたとおり、学会HPがリニューアルされています。新HPのURLは以下のとおりです。

<http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

新入会員 (2015年9月～2016年3月入会承認)

●正会員

会員名	勤務先	ブロック	会員名	勤務先	ブロック
原 一将	有限会社ベネフィットワーク	北海道	瀬口 昌生	大手前大学	近畿
池頭 純子	大妻女子大学	関東・東北	津村 朗子	大阪学院大学	近畿
澤田 裕美	大妻女子大学短期大学部	関東・東北	中山 一郎	流通科学大学	近畿
高橋 裕樹	聖徳大学	関東・東北	木村絵里子	F・Cフチガミ医療福祉専門学校	九州・沖縄
藤島喜代仁	育英短期大学	関東・東北	土屋衛治郎	九州工業大学	九州・沖縄
渡部 俊和	合同会社渡部俊和事務所	関東・東北	松尾 裕一	東亜大学	九州・沖縄

●学生会員

会員名	所属先	ブロック
濱島 由季	藤田保健衛生大学大学院	中部

※ほか1名、本人の希望により氏名等は掲載しません。

第35回 全国大会のご案内

■開催日時：平成28年6月11日(土)・12日(日)

■会場：金城大学笠間キャンパス・ANAクラウンプラザホテル金沢

■大会統一テーマ：「地域と連携するビジネス実務教育」

■大会事務局：金城大学・金城大学短期大学部 お問い合わせ先：E-mail/ jsabs35@kinjo.ac.jp

※大会案内第2号通信は4月5日頃発送予定です。参加申し込みはお早めをお願いいたします。

日本ビジネス実務学会会報No.64

◆発行日：2016年4月1日

◆編集：広報委員会 和田佳子(委員長)・大橋健治・金岡敬子・高橋真知子・手嶋慎介・中川伸子

◆連絡先：日本ビジネス実務学会事務局 TEL 011-807-7176

◆印刷：山藤三陽印刷株式会社 〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1